

## 令和3年度第7回教育研究評議会議事録

日時 令和3年10月20日(水) 14:30～16:48 TV会議  
場所 共通教育A棟5階大会議室、S-Port 3階会議室  
出席者 日詰、塩尻、川田、森田、大場、川村、池田、高倉、金原、本橋、近藤、  
田島、桐谷、熊倉、村山、笹原、小西、田中、山本、喜多、木村、鳥山、  
加藤、江口、猪川、原、三村、朴、坂本の各評議員  
欠席者 片田委員  
陪席者 鈴木、河島の各監事、井柳、下村の各学長補佐  
厨子 大学教育センター長、長谷川 情報基盤センター長、北村 防災総合センター  
長

### I 前回議事録の承認について

令和3年度第6回教育研究評議会議事録(案)を原案どおり承認した。

### II 審議事項

#### 1 静岡大学の将来構想について

議長から、静岡大学の将来構想について、資料1-1により、令和2年度以降の会議等の開催状況、資料1-2により、第34回静岡大学・浜松医科大学連携協議会(令和3年9月28日)、資料1-3により、第34回連携協議会を受けた本学の今後の対応、資料1-4により、未来創生本部設置準備室の設置、資料1-5により、新学部構想案等の報告があり、意見交換を行った。

<議長の主な説明(資料記載事項以外)>

- ・ 文部科学省より、国立大学改革強化推進補助金の事業期間を通じた評価に関する通知があり、現在、浜松医科大学と合同で調書を作成中である。
- ・ 静岡市副市長より、文部科学省の要請を受け、静岡大学将来構想協議会のまとめのフォローアップの会議体を設けたいとの申し出があり、必要との判断でお受けした。  
11月スタートに向けて委員構成等を調整することとした。

<森田委員からの補足説明>

- ・ 浜松医科大学との「研究情報交換会」について、今後、対象学部と調整していくので協力いただきたい。
- ・ 未来創生本部設置準備室は委員の他に金原副学長に参画いただき検討を進めている。今後、具体的な議論に入る段階で学長補佐及び各学部教員の参画について協力いただきたい。

<委員から出された意見等>

- ・ 近藤委員から、静岡市から設置の申し出のあった会議体について、フォローアップとは具体的にどういうことを行うことを想定しているのかとの質問があり、議長から、3月29日に静岡大学将来構想協議会のまとめ(提言)があり、その進捗状況の確認と静岡市として協力できることがあれば、色々な形で協力していきたいとお話をいただいた。例えばプラットフォームの設立など、前向きに取り組んでいくための調整をしていきたいとの申し入れをいただいたとの回答があった。
- ・ 近藤委員から、プラットフォームに参画するであろう近隣の大学等の関係者も委員と

して参画する予定であるのか質問があり、議長から、具体的には決まっていないが、参画いただくことも想定しているようだとの回答があった。

- ・ 川田委員から、フォローアップとのことであるが、静岡市が大学の運営に介入してくるのはまずいのではないか。また、浜松の意見が全く入っていないので慎重に対応する必要があるとの発言があり、議長から、論点整理をするうえで、浜松キャンパスの意向も聞きとり進めていきたいとの発言があった。
- ・ 近藤委員から、新学部を設置した際の教員の再配置の見通しについて質問があり、議長から、各学部等との意見交換の際にも学生定員の規模や教員の配置等について質問や意見をいただいております、重要な点であること、既に6学部は体系的な教育を展開しており、その中でどこまでご理解・協力いただけるのか、今後カリキュラムの編成を確定させていく中で相談をさせていただきたいと考えているとの発言があった。また、新学部に不足する教員をどのように手当てするのかという点については、教育組織整備要求やクロスアポイントメントの活用ということもある。また、本学は教育・研究組織と教員組織が分離しているので、柔軟な配置ができるのではないかなど、本格的な議論を始めようとしているところであるとの回答があった。
- ・ 笹原委員から、新学部構想案は実際の教員の異動等を考えると静岡キャンパスの比重が高いという印象であるが、各学部の将来構想を進めるうえで、そういう認識でよいかとの質問があった。これに対し、議長から、ようやくここまでこぎ着けた段階で具体的な検討はこれからであるが、情報、データ解析等も重要な科目であり、人間科学の厚みも必要なため、“オール静岡大学”を念頭に進めていきたい、ただし、各学部の将来構想との調整も進める必要があるため相談させてほしいとの回答があった。
- ・ 鳥山委員から、新学部と既存の学部の発展、お互いにどういう利点があるのか、静岡大学全体の将来構想について、いつまでに何をするのかというシナリオが示されるべきであるとの発言があった。これに対し議長から、ご意見はそのとおりであり、6学部の将来構想を少しずつ聞き取ってきているが、新学部の貢献、関係性を含め全体像をまだ描ききれていない、本日提示した資料では本学が置かれている環境の中で新学部構想がどういう背景のもとにできたのかのみを示しており、今後、全体のシナリオを含め、図を検討していきたいとの発言があった。
- ・ 高倉委員から、新学部に対応する教員組織について質問があり、議長から、新たな領域に所属し、主担当・副担当を上手く活用していきたいが、今後の検討課題として考えているとの回答があった。

## 2 令和4年度非常勤講師所要時間数について

塩尻委員から、令和4年度非常勤講師所要時間数について、資料2により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

## 3 JPTI6 持続可能な開発コンソーシアム誓約合意書の締結について

近藤委員から、JPTI6 持続可能な開発コンソーシアム誓約合意書の締結について、資料3により提案があり、審議の結果、これを承認した。

## 4 東華大学（中国）との大学間交流協定の締結について

近藤委員から、東華大学（中国）との大学間交流協定の締結について、資料4により提案があり、審議の結果、これを承認した。

#### 5 テイラーズ大学（マレーシア）との大学間交流協定の更新について

近藤委員から、テイラーズ大学（マレーシア）との大学間交流協定の更新について、資料5により提案があり、審議の結果、これを承認した。

#### 6 マレーシアプトラ大学（マレーシア）との大学間交流協定の更新について

近藤委員から、マレーシアプトラ大学（マレーシア）との大学間交流協定の更新について、資料6により提案があり、審議の結果、これを承認した。

#### 7 大学機関別認証評価（令和3年度実施分）「書面調査による分析状況」及び「訪問調査時の確認事項」について

金原委員から、大学機関別認証評価（令和3年度実施分）「書面調査による分析状況」及び「訪問調査時の確認事項」について、資料7により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

また、議長から、11月18日に行われる訪問調査への協力依頼があった。

#### 8 ネーミングライツ事業の導入について

総務部長から、ネーミングライツ事業の導入について、資料8により提案があり、審議の結果、資料を一部修正することを含め、これを承認した。

<委員から出された意見等>

- ・ 木村委員から、既にネーミングライツを実施している大学の事例は様々で、想定している内容と異なる場合があるので、注意して運用いただきたいとの発言があり、総務部長から、内容を精査していきたいとの発言があった。
- ・ 桐谷委員から、事業規則（案）第6条第1項7号及び8号については法律を規定した方が後々問題がないのではないかと意見があり、総務部長から書きぶりを統一するとの発言があった。
- ・ 笹原委員から、講義室や会議室が対象となっているが、そぐわない場所もあるため、運用にあたっては委員会で十分議論いただきたいとの発言があった。

#### 9 学生の懲戒について

池田委員から、学生の懲戒処分案について、別添資料により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

### Ⅲ 報告事項

#### 1 令和3年度第6回企画戦略会議（令和3年10月6日）報告

議長から、令和3年度6回企画戦略会議（令和3年10月6日）について、資料9により報告があった。

#### 2 教員採用等報告について

議長から、教員の採用2件について、資料10により報告があった。

#### 3 プロジェクト研究所の設置について

川田委員から、プロジェクト研究所の設置3件について、資料11により報告があった。

#### 4 静岡大学営利企業役員等兼業審査委員会要項の一部改正について

森田委員から、静岡大学営利企業役員等兼業審査委員会要項の一部改正について、資料12により報告があった。

#### 5 大学院入試における入試ミス等について

塩尻委員から、大学院入試における入試ミス等について、資料13（委員限り）により経緯の報告、また、田島委員から再発防止策の説明があり、議長から、今後の入試業務について注意喚起があった。

### IV その他

#### 1 新型コロナウイルス感染症に関する大学の対応について

議長から、新型コロナウイルス感染症に関する大学の対応について、以下の報告等があった。

<議長の主な説明>

- ・ 10/13 開催の対策本部会議において、活動指針と課外活動等活動指針のレベルの見直しを審議し、10/15以降、両指針をレベル2に引き下げた。
- ・ 新型コロナワクチン大学拠点接種が終了した。

以上